



(財)財務会計基準機構会員

平成20年3月期 第3四半期財務・業績の概況

平成20年2月6日

上場会社名 富士急行株式会社 上場取引所 東証一部
 コード番号 9010 URL <http://www.fujikyuu.co.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)堀内 光一郎
 問合せ先責任者 (役職名)IR推進室長兼経営管理部長 (氏名)和田 一成 TEL (0555)22-7120

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年3月期第3四半期の連結業績 (平成19年4月1日～平成19年12月31日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第3四半期	36,181	5.2	3,074	△19.4	2,317	△27.4	1,137	△35.6
19年3月期第3四半期	34,393	6.8	3,812	11.7	3,190	14.8	1,767	17.6
19年3月期	46,414	—	4,710	—	3,813	—	1,638	—

	1株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益
	円 銭	円 銭
20年3月期第3四半期	10.66	—
19年3月期第3四半期	16.69	—
19年3月期	15.39	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期第3四半期	85,512	16,192	18.3	147.18
19年3月期第3四半期	88,335	15,592	17.3	143.62
19年3月期	85,680	16,105	18.1	145.62

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期第3四半期	3,085	△2,610	444	7,223
19年3月期第3四半期	5,335	△4,725	1,000	8,408
19年3月期	6,689	△6,234	△948	6,304

2. 平成20年3月期の連結業績予想 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %	円 銭
通 期	47,450 2.2	3,660 △22.3	2,610 △31.6	1,190 △27.4	11.15

3. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無：無
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

平成20年3月期の業績予想につきましては、平成19年10月12日公表の「業績予想の修正のお知らせ」と変更ありません。

なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期における連結売上高は361億81百万円（前年同期比5.2%増）、営業利益は30億74百万円（前年同期比19.4%減）、経常利益は23億17百万円（前年同期比27.4%減）、四半期純利益は11億37百万円（前年同期比35.6%減）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

(1) 運輸業

主力のバス事業のうち乗合バス営業においては、引き続き関係自治体と不採算路線の見直しを行うなど効率的な運行に取り組みました。

高速バス営業においては、11月から「沼津～東京駅線」、「沼津～渋谷・新宿線」において平日限定回数券「得ダ値きっぷ」を発売開始し、利用者の増加に努めるなど高速バス営業の拡大を図りました。

貸切バス営業においては、11月に静岡県沼津市において「技能五輪国際大会」が開催され、これに伴うシャトルバス輸送、選手役員送迎バスを積極的に受注しました。

また、タクシー営業においては、静岡地区で11月、山梨地区で12月に運賃改定を行いました。

この結果、運輸業全体の売上高は135億51百万円（前年同期比3.2%増）、営業利益は軽油単価が上昇しておりますが、13億3百万円（前年同期比17.9%増）となりました。

(2) 不動産業

不動産販売事業では、引き続き山中湖畔別荘地において建築デザイナーやハウスメーカーとのコラボレーション等による建売商品の販売を推進しました。特に、「ホンカガーデン山中湖」は昨年好評のうちに完売となりました。また、同じく好評を博した「ガレージハウス山中湖」の第二期販売を開始するとともに、新たに「クラフトマンコテージ」、「Town & Country 山中湖ヒルズ」の販売を展開しております。

この結果、売上高は25億13百万円（前年同期比23.8%増）、営業利益は7億4百万円（前年同期比41.0%増）となりました。

(3) レジャー・サービス業

主力の遊園地事業については、富士急ハイランドにおいては、総回転数世界一のローラーコースター「ええじゃないか」の搭乗者が100万人を達成し、「ええじゃないか100万人達成謝恩キャンペーン」を展開しました。また、映画「バイオハザード」とコラボレーションした企画「戦慄迷宮EX. バイオハザード」や車で来園されるお客さまへ向けた「ガソリン代一獲千金キャンペーン」等のイベントを実施しましたが、ガソリン価格の高騰や天候不順等の影響を受け入園者数が減少したことにより減収となりました。

富士南麓のフジヤマリゾートでは、屋外スキー場として日本一早く「スノータウンYeti（イエティ）」をオープンさせるなど増収に努めました。また、遊園地「Grinpa（ぐりんぱ）」、ゴルフ場「ゴルフパークBandi（バンディ）」も順調に推移しました。

さらに、「ふじやま温泉」や「さがみ湖ピクニックランド」が通期営業となったことに加えて、指定管理事業も堅調に推移し増収に寄与しました。

この結果、売上高は164億55百万円（前年同期比1.0%増）となりましたが、営業利益は、法人税法改正に伴う減価償却費増加等もあり、10億46百万円（前年同期比52.8%減）となりました。

(4)その他の事業

製造販売業では、交通機器安全装置等の販売が堅調に推移するとともに、ミネラルウォーター販売が引き続き非常用保存水としての需要を取り込み増収に寄与しました。この結果、売上高は57億16百万円（前年同期比9.4%増）、営業利益は63百万円（前年同期比148.7%増）となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

(1)財政状態の変動状況

当第3四半期末における総資産は、855億12百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億67百万円減少しました。これは主に法人税法の改正に伴い減価償却費が増加し固定資産が減少したことなどによるものです。

また、負債につきましては、前連結会計年度末に比べ2億54百万円減少しました。これは主に支払手形及び買掛金の減少や未払法人税等の減少などによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ86百万円の増加となりました。これは主に四半期純利益によるものです。

(2)キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の減少やたな卸資産（分譲土地等）の取得による資金支出等がありましたが、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等の内部留保により、30億85百万円の資金収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により26億10百万円の資金支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の増加などにより、4億44百万円の資金収入となりました。

これらの結果、現金及び現金同等物の当第3四半期末残高は72億23百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億18百万円増加しました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成20年3月期の業績予想につきましては、平成19年10月12日公表の「業績予想の修正のお知らせ」と変更ありません。

4. その他

(1)期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2)会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無

該当事項はありません。

(3)最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無

該当事項はありません。

4. (要約) 四半期連結財務諸表

(1) (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期末 (平成19年3月期 第3四半期末)	当四半期末 (平成20年3月期 第3四半期末)	増 減		(参考) 前期末 (平成19年3月期末)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
I 流動資産	25,740	24,410	△1,330	△5.2	23,301
1 現金及び預金	8,546	7,330	△1,216	△14.2	6,441
2 受取手形及び売掛金	1,846	2,065	219	11.9	2,681
3 たな卸資産	14,114	13,882	△231	△1.6	13,088
4 その他	1,233	1,132	△101	△8.2	1,090
II 固定資産	62,594	61,102	△1,492	△2.4	62,378
A 有形固定資産	52,369	51,437	△932	△1.8	51,922
1 建物及び構築物	28,307	27,742	△564	△2.0	28,018
2 機械装置及び運搬具	8,820	7,792	△1,027	△11.7	8,495
3 土地	13,458	13,533	74	0.6	13,519
4 建設仮勘定	77	771	694	899.4	275
5 その他	1,705	1,596	△108	△6.4	1,612
B 無形固定資産	2,963	2,976	13	0.4	3,002
C 投資その他の資産	7,261	6,688	△572	△7.9	7,454
1 投資有価証券	5,562	5,172	△390	△7.0	5,732
2 その他	1,698	1,516	△182	△10.7	1,721
資産合計	88,335	85,512	△2,822	△3.2	85,680

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期末 (平成19年3月期 第3四半期末)	当四半期末 (平成20年3月期 第3四半期末)	増 減		(参考) 前期末 (平成19年3月期末)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(負債の部)					
I 流動負債	24,949	30,764	5,815	23.3	22,888
1 支払手形及び買掛金	2,404	2,594	190	7.9	3,052
2 短期借入金	16,171	24,087	7,916	48.9	14,884
3 賞与引当金	173	177	3	2.1	505
4 その他	6,200	3,905	△2,295	△37.0	4,445
II 固定負債	47,793	38,555	△9,238	△19.3	46,686
1 長期借入金	41,410	32,094	△9,315	△22.5	40,288
2 退職給付引当金	1,577	1,500	△76	△4.9	1,520
3 役員退職慰労引当金	—	342	342	—	—
4 その他	4,805	4,617	△188	△3.9	4,877
負債合計	72,743	69,320	△3,423	△4.7	69,574
(純資産の部)					
I 株主資本	14,799	15,486	687	4.6	14,932
1 資本金	9,126	9,126	—	—	9,126
2 資本剰余金	3,334	3,399	65	2.0	3,399
3 利益剰余金	3,790	4,267	476	12.6	3,661
4 自己株式	△1,452	△1,307	145	10.0	△1,254
II 評価・換算差額等	474	203	△270	△57.0	608
1 その他有価証券 評価差額金	474	203	△270	△57.0	608
III 少数株主持分	318	502	183	57.7	564
純資産合計	15,592	16,192	600	3.9	16,105
負債、純資産合計	88,335	85,512	△2,822	△3.2	85,680

(2) (要約) 四半期連結損益計算書

(単位：百万円、%)

科 目	前年同四半期 (平成19年3月期 第3四半期)	当四半期 (平成20年3月期 第3四半期)	増 減		(参考) 前期 (平成19年3月期)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
I 営業収益	34,393	36,181	1,788	5.2	46,414
II 営業費	30,580	33,107	2,527	8.3	41,703
1 運輸事業等営業費 及び売上原価	29,616	32,209	2,593	8.8	40,431
2 販売費及び一般管理費	963	897	△65	△6.8	1,272
営業利益	3,812	3,074	△738	△19.4	4,710
III 営業外収益	325	216	△109	△33.5	385
IV 営業外費用	947	973	25	2.7	1,282
経常利益	3,190	2,317	△873	△27.4	3,813
V 特別利益	9	185	176	1,954.8	281
1 固定資産売却益	0	166	166	49,278.7	55
2 投資有価証券売却益	—	—	—	—	2
3 工事負担金受入額	—	—	—	—	77
4 補助金	4	8	4	110.6	133
5 貸倒引当金戻入額	4	10	5	124.3	11
VI 特別損失	165	429	264	159.6	1,223
1 固定資産売却損	7	—	△7	—	296
2 分譲土地評価損	—	—	—	—	300
3 役員退職慰労引当金 繰入額	—	344	344	—	—
4 固定資産圧縮損	4	8	4	110.6	198
5 固定資産除却損	154	76	△77	△50.2	426
税金等調整前四半期 (当期)純利益	3,034	2,072	△961	△31.7	2,871
法人税、住民税及び事業税	1,138	831	△307	△27.0	1,146
法人税等調整額	92	69	△23	△25.1	△30
少数株主利益	35	33	△1	△3.0	117
四半期(当期)純利益	1,767	1,137	△630	△35.6	1,638

(3) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

区 分	前年同四半期 (平成19年3月期 第3四半期)	当四半期 (平成20年3月期 第3四半期)	(参考) 前期 (平成19年3月期)
	金 額	金 額	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
1 税金等調整前四半期(当期)純利益	3,034	2,072	2,871
2 減価償却費	2,681	2,949	3,566
3 その他の損益等調整額	843	655	1,938
4 資産・負債の増減額	468	△419	371
小 計	7,027	5,257	8,747
5 利息の支払額等	△854	△858	△1,143
6 法人税等の支払額	△838	△1,314	△915
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,335	3,085	6,689
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1 有形固定資産の取得による支出	△4,990	△3,221	△6,640
2 その他	265	610	406
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,725	△2,610	△6,234
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1 借入金を増減額	970	1,009	△1,439
2 その他	30	△565	490
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,000	444	△948
IV 現金及び現金同等物の増減額	1,610	918	△493
V 現金及び現金同等物の期首残高	6,798	6,304	6,798
VI 現金及び現金同等物の四半期末 (期末) 残高	8,408	7,223	6,304

(4) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

前年同四半期（平成19年3月期第3四半期）

（単位：百万円）

	運輸業	不動産業	レジャー・サービス業	その他の事業	計	消去又は 全社	連結
営業収益							
(1) 外部顧客に対する 営業収益	13,090	1,674	16,080	3,546	34,393	—	34,393
(2) セグメント間の内部 営業収益又は振替高	35	356	208	1,679	2,279	(2,279)	—
計	13,126	2,030	16,289	5,226	36,672	(2,279)	34,393
営業費用	12,020	1,531	14,072	5,200	32,825	(2,244)	30,580
営業利益	1,106	499	2,216	25	3,847	(34)	3,812

当四半期（平成20年3月期第3四半期）

（単位：百万円）

	運輸業	不動産業	レジャー・サービス業	その他の事業	計	消去又は 全社	連結
営業収益							
(1) 外部顧客に対する 営業収益	13,497	2,169	16,192	4,322	36,181	—	36,181
(2) セグメント間の内部 営業収益又は振替高	54	344	262	1,394	2,055	(2,055)	—
計	13,551	2,513	16,455	5,716	38,237	(2,055)	36,181
営業費用	12,248	1,809	15,409	5,653	35,120	(2,012)	33,107
営業利益	1,303	704	1,046	63	3,117	(43)	3,074

(参考) 前期（平成19年3月期）

（単位：百万円）

	運輸業	不動産業	レジャー・サービス業	その他の事業	計	消去又は 全社	連結
営業収益							
(1) 外部顧客に対する 営業収益	16,970	2,398	21,254	5,790	46,414	—	46,414
(2) セグメント間の内部 営業収益又は振替高	54	457	310	2,242	3,066	(3,066)	—
計	17,025	2,856	21,565	8,033	49,480	(3,066)	46,414
営業費用	15,882	2,205	18,853	7,788	44,729	(3,026)	41,703
営業利益	1,142	650	2,711	245	4,750	(39)	4,710